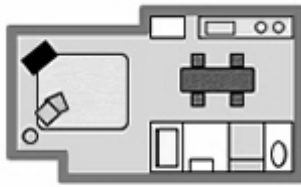


建物の形（整形・不整形）別 結果データ （平成18年4月1日～平成18年11月30日/木耐協調べ）

平成18年4月1日から平成18年11月30日まで（8ヶ月）に、木耐協で実施した耐震診断2,364件の耐震診断結果について、建物の形（整形・不整形）で分析したものです。

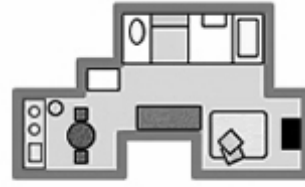
※ 建物の形（整形・不整形）とは

その建物に必要な強さを割り出すために、平面的に建物の形を見た際のその建物の最も短い辺の長さを測ります。短辺の長さを「～4m」「4～6m」「6m～」の3段階に分けて、短い場合には不整形な建物として必要な強さが割増されます。



整形＝一辺が長い

特に問題のない普通の形



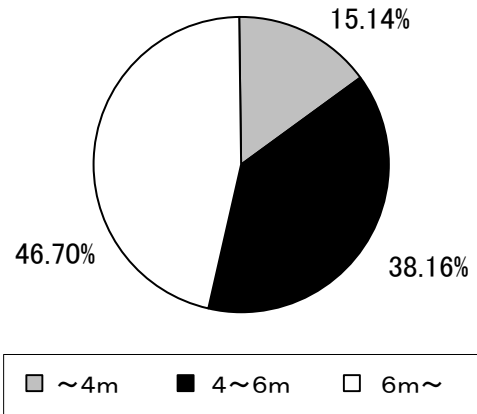
不整形＝一辺が短い

上から見ると凹凸が大きい

■ 短辺長さの割合

（平成18年4月1日～平成18年11月30日）

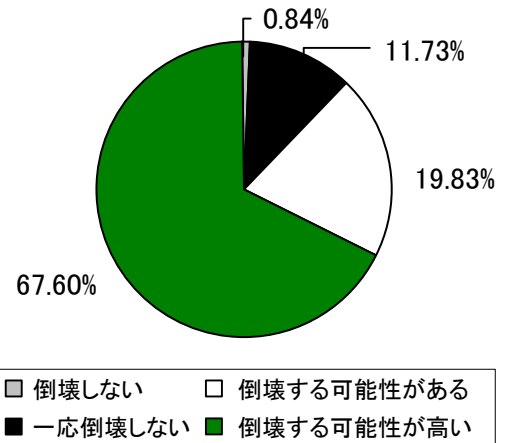
～4m	358	15.14%
4～6m	902	38.16%
6m～	1,104	46.70%
合計	2,364	



■ ～4m（不整形な建物）

（平成18年4月1日～平成18年11月30日）

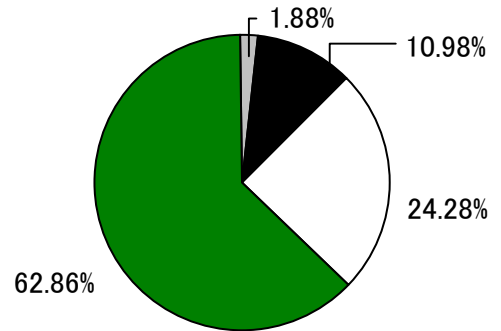
倒壊しない	3	0.84%
一応倒壊しない	42	11.73%
倒壊する可能性がある	71	19.83%
倒壊する可能性が高い	242	67.60%
合計	358	



■ 4～6m（やや不整形）

（平成18年4月1日～平成18年11月30日）

倒壊しない	17	1.88%
一応倒壊しない	99	10.98%
倒壊する可能性がある	219	24.28%
倒壊する可能性が高い	567	62.86%
合計	902	

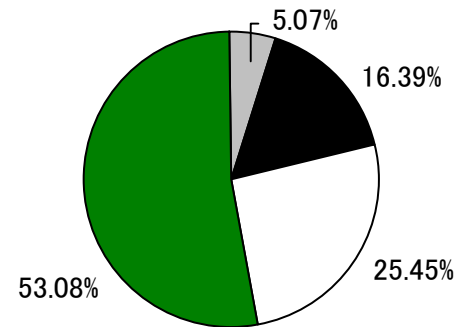


倒壊しない
 倒壊する可能性がある
 一応倒壊しない
 倒壊する可能性が高い

■ 6m～（整った建物）

（平成18年4月1日～平成18年11月30日）

倒壊しない	56	5.07%
一応倒壊しない	181	16.39%
倒壊する可能性がある	281	25.45%
倒壊する可能性が高い	586	53.08%
合計	1,104	



倒壊しない
 倒壊する可能性がある
 一応倒壊しない
 倒壊する可能性が高い

■不整形な家ほど、耐震性に不安が有る

総合評点が0.7を下回る住宅の割合を見ると、「～4m」では67.60%、「4～6m」では62.86%、「6m～」では53.08%と明らかな違いがある事がわかります。建物が不整形な事が原因で壁の配置バランスも悪くなり、また耐震性確保に必要となる強さが増える為に、結果として耐震性が下がる事が考えられます。